

人類へのメッセージ 岡田康博

鉄は錆び、木は朽ち、やがて自然に還る。それが本来の姿。だが人は、自然が分解できない「安定分子」をつくることで便利を手にした。安定は儲かり、不安定は価値を持たない——それが人間社会の経済の論理だ。しかしその論理こそが、自然界の循環を断ち切り、地球のバランスを崩している。自然はバランスで成り立つ。人は、安定という名の不自然を大量にばら撒いている。

安定で良いのは原子だけ。

だが、その原子さえも分解すれば、それは爆弾になる。

自然のバランスを壊してまで「安定」を求め続ける人間。

その果てにあるのは、利便か、破壊か。

岡田康博の主張

■ 自然界の原則

鉄は錆びて自然に還る

木は腐って土に還る

→ 分解・循環 = 自然界の秩序

■ 人間社会の逆行

PFOA・PFOSのような「安定分子」は自然界で分解されない

人は「安定＝劣化しない＝長持ち＝儲かる」を求める

→ 結果として、自然のバランスを破壊

■ 哲学的な対比

「安定」が良いのは原子レベル（自然の摂理）

「分子」は自然に還ることが前提（不安定でも循環可能）

人は「安定分子」を人工的に作り、自然の摂理に逆らっている

■ 経済の論理と自然の論理の衝突

商品＝安定して壊れにくいもの

循環＝壊れ、分解され、再生されるもの

この矛盾が地球環境の破壊につながる